

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-35	実施計画番号		事業開始年度	平成27年度
事務事業名	医業収益の改善			事業終了年度	
担当課名	医事課			事務の種類(選択)	
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	病院収支の健全化				
事務事業の目的	病院運営の安定化のため医業収益の向上を図る。				
実施状況	診療報酬の適切な算定と施設基準や各種加算の見直しをはかるために経営改善委員会を設置				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	1	2	6
	人件費(千円)	36	72	216
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		36	72	216

【指標】

活動指標	活動指標名①		委員会開催件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件	1	2	2
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		医業収益			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	目標値: 予算 実績値: 決算	千円	目標値	7,238,298	7,139,936	7,325,727
			実績値	6,998,156	6,289,849	
			達成度(%)	97%	88%	
	成果指標名②		患者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	目標値: 予算 実績値: 決算	人	目標値	259,077	259,077	246,043
実績値			257,877	215,027		
達成度(%)			100%	83%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	3	存在意義の見直しの余地	1 / 4
	②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1			
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地	3 / 6
	④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		委員会の活動回数が少ないせいか、効果的な改善案が示されていない	
	⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地	0 / 6
	⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地	0 / 4
	⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					16 / 20	改善の余地		4 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

細かな改善案が出されて、新たな加算取得に向けて収入は向上しているが、支出に対する有効な改善案がない

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

委員会のメンバー構成の検討と、支出に対する分析と対策